

第25期 岡山県産業教育審議会 第3回会議（概要）  
平成22年8月31日（火）13時30分～15時30分 県庁3階大会議室

1 開会

○挨拶（会長）

- ・産業教育はこれからますます真剣になっていかないといけない。
- ・不況の中、新しい産業が必要である。想像力のたくましい若者が出てこないと景気回復は難しい。産業教育のことを知っていただくことも大切である。

○挨拶（教育委員会）

- ・岡山県高等学校教育研究協議会が設置され、審議が始まった。それには本審議会の建議も反映される。
- ・文部科学省の中央教育審議会からキャリア教育の報告もあり、学習の観点、時間を明確にするなどが示されている。

2 報告・審議（司会：会長）

（1）報告（委員）

- ・第2回専門委員会では、第1回専門委員会で調査・研究した「専門高校の現状と課題」を踏まえて、次の3点を中心に調査・研究を行った。
  - ①学習面及び学習面以外で育成すべき能力
  - ②産業界と連携した地域産業の担い手育成の在り方について
  - ③各専門教育の現状と課題
- ・第3回専門委員会では、現状と課題を再確認した上で、次の2点を中心に調査・研究を行った。
  - ①専門高校の目指すもの
  - ②具体的な改善・充実方策

（2）審議

○事務局より説明

『新たな時代に対応したスペシャリスト育成のために』建議に向けたこれまでの審議の中間まとめについて

○協議

（委員）建設、製造業への就職が厳しくなっているものの、各方面の御尽力により高校生の就職については最大限努力できていた。最終的に生徒が就職できる環境をつくり、サポートできるといった内容を入れてはどうか？

（事務局）昨年も厳しい就職状況だった。今年度もさらに厳しい状況が考えられる。各方面からの支援により、未就職者への支援策が様々あった。

（委員）私どもの方の調査では、去年より厳しい状況がうかがえる。審議会においても、就職が厳しい状況をふまえた対応をする必要があるのではないか。

（委員）今春、来春の就職が厳しいということは、求人がないということであるが、数年前は求人を出しても働き手がない状況があった。数年の間にも、目先の状況がどんどん変わってきている。来年は厳しいが再来年もそうかというところでもないかもしれない。何がどうなるかわからない状況で、企業も、学校も、柔軟性のある動きができるようにしていかなければならないと思う。

（委員）本来の趣旨とは違うことかもしれないが、現実的には、県、県教委等が行政としてやるべき責任を果たすべきということを、言わせてもらった。

（委員）岡山労働局で、7月末の段階の求人状況を発表したもので、最新のものを参考にさせていただきたい。

（委員）医療・福祉関係の求人が増えている。私どものセミナーに医療・福祉系の特に女性の活用が増えている。

- (委員) 求人が減少していることは事実だが、医療・福祉系では、一方でミスマッチがあって、介護の人材は求人しても人が集まらない状況であるということを書いてはどうか。
- (委員) 産業教育の本来の趣旨からすると、岡山県が全国の産業教育と比べて一歩前を進まないといけないうらう。元気な中小企業を岡山県が作っていけば、就職の状況もよくなるだらう。環境が変わっているので、その変化にどう対応していけばよいかを考える必要がある。目先のことを議論するよりも、岡山県が全国や世界で勝つための方策を、産業教育として議論していかなければならないだらう。日本はあまりにも日本だけのことしか考えていない。「井の中の蛙」になっている。
- (委員) 日本の国が安全で豊かに生活しようとするら、必要な金を手に入れる必要がある。まんべんな状況では難しくなっている。
- (教育委員会) 郷土岡山の中で活躍する人材育成をするという在り方を考えるというように、ある程度場合分けをして考える必要を感じている。
- (委員) 岡山の特色を使いながら、世界に通用し、地域の技術力を上げていくような取組を進めることが、働く場を提供し、世界に目を向けることにもなる。  
日常生活の中で中学生が働く場を見ることが減っている中で、職場体験は非常に貴重な場である。しかし、サービス業での体験が多く、ものづくりや生産現場でできるだけ職場体験ができればいいと考えている。
- (委員) これからは、企業ベースで農業をやっていかないといけないうらう。岡山県のどこかの農業高校が企業ベースでできるような実験をやってみるのもおもしろいだらう。
- (委員) 大規模農業ばかりでなく、あらゆる産業で、採算を上げるための取組を高校生にも取り組んでもらってはどうか。
- (教育委員会) スーパー専門高校やスーパーエンバイロメントハイスクールなどの取組を進めてきたが、これらが、校内だけの取組になりがちである。今まであるものの方向を少し改善することで対応したり、新たな発想で行う部分も必要だと思っている。
- (事務局) 県産業教育フェアを平成9年から14年まで実施していた。現在は休止しているが、広く県民へ専門高校の取組を紹介する場を設けるようなことも検討していきたい。
- (委員) あまりお金をかけないでできる方策を検討して、実施してもらいたい。
- (委員) 事業所見学は効果的であると聞いている。近くに企業があっても見せてもらう機会が少ないので、バスなどを使用して事業所見学をするのがよいうらう。アルバイトを経験できる機会も必要ではないか。キャリア教育が必要と言われているが、今の大人は「キャリア教育」を受けないで働いている。今のような状況を考えてと保護者の意識が昔のまま、今の状況を理解できておらず、就職へつながらないことがある。生徒だけでなく、保護者の意識を変えるようなサポートを考える必要があるのではないか。
- (委員) 家庭環境が厳しい状況で、アルバイトをしている生徒もいる。部活動や資格取得など一生懸命やっている生徒はアルバイトをする時間がない。  
岡山県は職業教育の割合が全国的に見ても高い。  
厳しい就職状況の中では、企業に選んでもらえるだけの人材を育成することが大切だらう。各学校でも、学力を身に付けさせることができるよう取り組んでいる。
- (委員) インターンシップの実施は増えているのか？
- (事務局) 年々少しずつ増えている。昨年は新型インフルエンザの影響があった。
- (委員) 産業界との連携はどうか？
- (事務局) 産業教育振興会が年1回実施している産業教育懇談会があるが、非常に有意義である。これは県全体での取組だが、地域ごとに、学校と産業界との懇談ができるような取組も考えていきたい。

- (委員) 商業だけでなく、農業と商業とが連携するような模擬会社などを設立するような継続的な取組もやってはどうか？  
また、教員が産業界へ出て行って体験できるような研修は取り組んでいるか？企業側の受入は産業教育振興会を利用して働きかけて協力を依頼すればよい。
- (委員) 小・中学校と高等学校との交流活動ができているか？  
親が働く職場を見学するような機会を設けてはどうか？
- (事務局) 小・中学校と専門高校との間で交流が全くできていないというわけではなく、もっと、保護者や教員へ伝わるようにしたいと考えている。

#### 4 閉 会

##### ○挨拶（副会長）

- ・多くの意見があった。新たな時代に対応したということで、今までは追いつけ追い越せだったが、今は逆である。グローバルな視点でものを見なければならぬ。
- ・専門委員会でも、建議案に向けていろいろ検討してもらいたい。